

大正生まれの 安倍川橋編



静岡
ドボジョ
が行く!

河川敷から見る安倍川橋

橋脚(地震対策)

元々あった橋脚にコンクリートを巻いて、補強しています。

落橋防止システム(地震対策)

地震などによって橋桁がずれて落ちることを防ぐために、凹凸により→←方向に大きなずれが生じることを防いでいます。

基礎

河川敷部分の桁下は約2.5mですが、橋を支えるための基礎は、地下に20mも入っています。5階建ての建物と同じくらいの高さです。



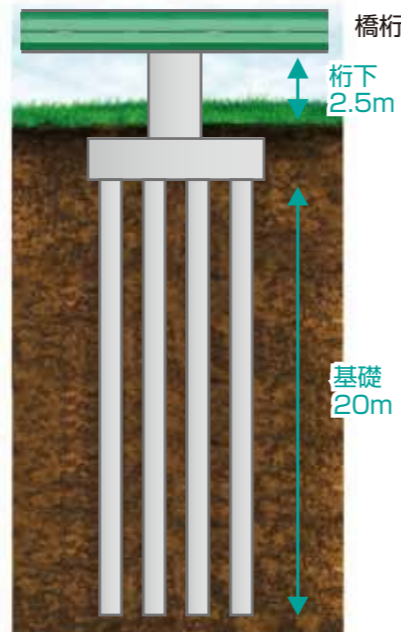
施行前

施行後



落橋防止システム

地面下の様子



橋桁

桁下 2.5m

基礎 20m

基礎とは、橋にかかる重さを地盤に伝え、支えるものです。

旧東海道と安水橋の面影

安倍川橋の静岡駅側には、江戸時代の川を渡る様子がわかる「川会所跡」の説明板、「安倍川義夫の碑」や、宮崎総五さんが多額の私財を投じて初代安水橋を建設したことを後世に伝えるための「安倍川架橋碑」、「篤行家宮崎総五頌徳碑」などの記念碑があります。下のマップを参考に、旧東海道や初代安水橋にまつわる記念碑を見て、安倍川の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか？



家康公もお気に入りだったスイーツ

歩き疲れた時には名物「安倍川餅」がオススメ。江戸時代に安倍川のほとりのお店が、安倍川の上流で金が見つけた時に、黄粉を砂金に見立てて、「安倍川の金な粉餅」と徳川家康公に献上したと言われています。現在でも安倍川橋の静岡駅側には、安倍川餅のお店があり、その場でつくたての安倍川餅を食べることができます。



安倍川餅



静岡ドボジョとは土木に興味がある静岡市役所で働く女性職員のことです。

安倍川橋へのアクセス

- バス** 【静岡駅方面から】 静鉄バス「丸子線」丸子営業所行、「中部国道線」藤枝駅行「安倍川橋」下車徒歩すぐ
 - 【藤枝方面から】 静鉄バス「中部国道線」新静岡行「安倍川橋」下車徒歩すぐ
 - レンタサイクル** J R静岡駅周辺 御伝鷹(みてた)情報発信ブースほか12箇所 J R静岡駅から20分程度
- 詳しくは、静岡市HP「レンタサイクル」を検索してね！



見学時のオススメ

橋には歩道があるので、歩きながら間近で橋を見ることができます。じっくり歩いてみると新しい発見があるかも。夏は直射日光が当たるので帽子、冬は風が強いですので暖かい服装がオススメ。自転車も通るので注意しながら見てね。



しずみち散歩 女性ワーキンググループ

静岡市建設局道路部道路計画課
〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号
電話: 054-221-1239

静岡市HP「しずみち散歩はじめます!!」も検索してね。



今回のワーキングメンバー

大正から現在へ、受け継がれる技術と思い

安倍川橋は、旧東海道の府中宿と丸子宿をへだてる安倍川に架かる橋です。江戸時代は、大きな川に橋を架けることが禁じられており、旅人は川越人夫に川を渡してもらう必要がありました。明治4年になると、仮橋や渡船で川を渡ることができるようになりましたが、天候に左右されるなど不自由を強いられていました。明治7年に**地元の実業家である宮崎総五さんが私財を投じて木製の「安水橋」を架けたのが安倍川橋の始まりです**。この橋は、静岡県内の4大川（富士川、安倍川、大井川、天竜川）に架かる最初の橋として完成しました。橋の建設には失業した川越人夫を助ける雇用対策の側面もあったようです。その後、木鉄混合製の二代目安水橋を経て、**橋の長さ、桁の数で日本有数のボーストリングトラス橋**として大正12年に完成したものが現在の安倍川橋です。平成に入り、歩道の設置や地震対策、渋滞対策として丸子側を一部架け替えて道路を広くするなど、**大正から現在までの技術を融合させ、現在（いま）も大切に使われています**。

概要

名前：安倍川橋（あべかわばし）
 延長：490.91m 幅員：7.27m
 構造および形式 鋼橋 ボーストリングトラス橋：12径間×35m アーチ橋：1径間×70m
 径間とは、橋脚と橋脚の間のこと

明治6年	9月	1873年	着手	初代 安水橋（あんすいばし）
明治7年	3月	1874年	完成	
明治36年		1903年	完成	二代目 安水橋（初代の橋より約40m上流）
大正11年	3月	1922年	着手	安倍川橋
大正12年	7月	1923年	完成	
昭和43年	4月	1968年	歩道の設置	
平成2年	3月	1990年	丸子側アーチ架け替え、右折車線を設置	
平成3年	～現在		塗り替え工事の実施	
				地震対策工事の実施

見てね
橋の形がちがう？
 大正時代につくられたままのトラス型が何個も連なっていますが、丸子側の端だけ違う形になっています。ここも、もともとは2つのトラス型でしたが、右折車線を設置する際に1つのアーチ型になりました。2種類のつくりが一度に見られる全国でも珍しい橋をぜひ近くで見てくださいね。

見てね
鉄骨を使った橋
 歩道から橋を見上げると、橋を安定させるために、いろいろな方向とつながっている鉄骨を見ることができます。これだけの鉄骨を使った橋は見ごたえがありますよ。

見つけてね
隠れ刻印がいっぱい
 橋にはたくさんのイギリス鋼材メーカーの刻印があります。イギリスから輸入した材料でつくられていると思うとなんだかオシャレですね。

探してね
「安倍川橋」の名を表示していた橋名額が橋の両端にあります。丸子側はアーチ橋を架け替えた際に移設しました。

撮ってみてね
 晴れている日には、丸子側から富士山と安倍川橋がきれいに見えます。富士山と一緒に写った安倍川橋もカッコイイですよ。



探してね **大正時代の部分はリベット**

リベット接合
 金属製の画鋸のような部材で、接合部の穴に通したあと反対側をつぶすことで固定します。安倍川橋で使われているものは丸いコロンとした形をしています。金属を熱いまま取扱うため、高いところを接合する時は、職人さんたちが素早く作業していたそうですよ。

ボルト接合
 その後に発明された固定方法で、ボルトを接合部の穴に通し、反対側をナットで固定します。リベットに比べると簡単に作業できるため、補修した部分はボルト接合が使われています。

横から見た様子
 リベット
 ボルト

